

NGOの大きな動きを地方から

「国際貢献トピア岡山構想」

岡山活動スタート

「国際貢献」といえば岡山と言われるように、世界にアピールしようとする「国際貢献トピア岡山構想」への取り組みが今年、スタート。十三日には、この構想を推進させるための初会合が岡山市内で開催される。

構想を提唱しているの連解協議会（AMDA）は、自然災害や内戦に苦しむ難民の緊急救援医療活動に取り組んでいる民間ボランティア団体「アジア医師

AMDAの主な活動

時期	活動内容
昭和59年12月	AMDA設立
平成3年4月	イラン国内のクルド難民の医療支援。フィリピン・ピナトウボ火山噴火被災民の医療支援
平成4年4月	バングラデシュ国内のミャンマー難民の医療支援
平成5年1月	岡山のNGOで編成したソマリア難民救援チームが活動を開始
5月	アジア15カ国・地域でアジア多国籍医師団を結成
7月	ネパール・バングラデシュ大洪水被災民の救援活動

AMDAが提唱

AMDAはアジア十五カ国・地域に支部を持ち、会員約五百五十人の医療分野を専門とするNGO（非政府の国際協力組織）。これまでに済南戦争後などに難民に医療支援を行ってきた。「国際貢献トピア岡山構想」は昨年末に提唱。

NGOが東京に集中している現状を打破り、岡山を拠点に、地方から大きな動きを起そうという考えだ。

構想実現の具体策として、今年十月にアジア、アフリカ、中南米から五十団

世界50団体参加のサミット開催

体のNGOを招き、「国際貢献NGOサミット」を開催。「ローカルNGOによる地域おこし」などをテーマに、意見交換する。また、海外NGOと総に戦争被害の大きかった広島、沖縄を訪問する「対話ツアー」も企画している。

今年13日に初会合

世界各国からの情報が集まるAMDA事務局。電話の応対にあたる菅波代表（白衣姿）岡山市構想で



ソマリア難民救援プロジェクトで患者を診察するAMDAの医師

のなかった地方自治体でのこうした動きが、市民の意識や関心をも高めていくと、期待されている。

昨年、御津郡加茂川町の職員入が、AMDAに同行してソマリア難民の救援活動に参加。行政知識を生かして、病院改修の際の水道敷設工事や作業員の給与計算などに活躍した。これが、自治体が動き始めるきっかけにもなった。

菅波代表は「NGOは宗教精神や個人のボランティアに支えられていた時代が終わり、地域に根付いた活動が求められている。現在は、NGOの本部の八割が東京に集中しているが、市民の方に参加してほしい、地方から世界へ大きな動きを起したい」と話す。

構想の最終目標は、国連の機能が果たする「アース・シユネーフ」に対し、岡山が民間の国際協力団体のネットワークとして国際的に認められること。世界にアピールできる岡山への、すでに動き、新しい岡山の姿を描きだそうとしている。

